

大規模処理施設での温湯浸漬処理後種子の長期保存条件

【1 成果概要】

次の2つのポイントを厳守することで、温湯浸漬処理後の水稻種子の発芽率（90%以上）を、長期間（24週まで）維持することができます。

- 1 温湯浸漬処理後、加温通風乾燥機を用いて20程度で種子水分を速やかに16%以下に低下させます。
- 2 15以下の清潔な暗所で保存します。



写真 温湯浸漬作業風景

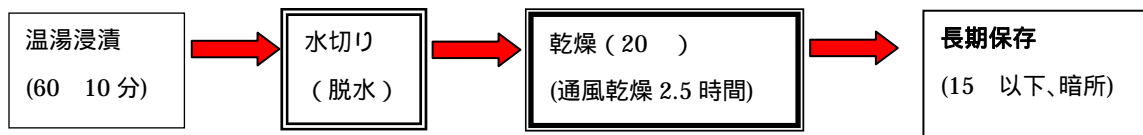


図1 温湯浸漬処理済み種子の長期保存のフロー

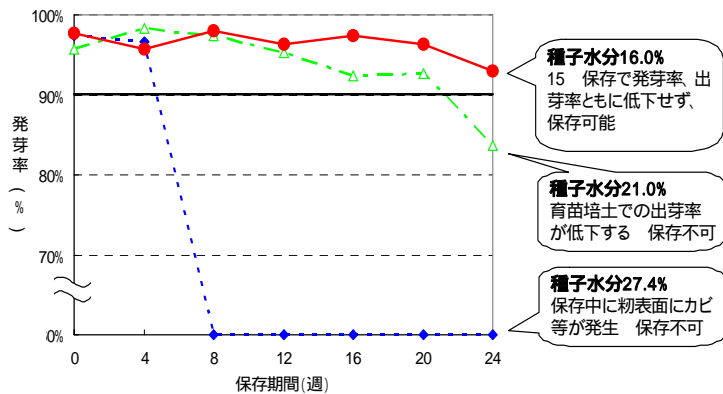


図2 温湯浸漬処理後の種子水分と発芽率 (15 保存)

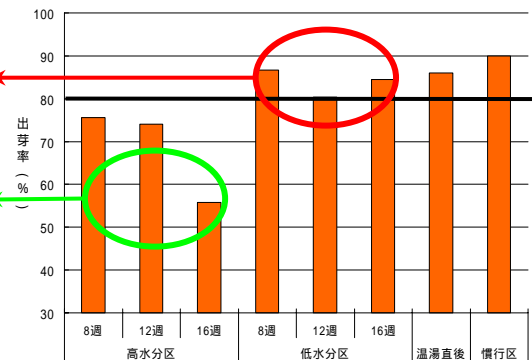


図3 温湯浸漬処理後の種子水分が出芽率に及ぼす影響(15 保存)

【2 長期保存する場合の留意事項】

- 1 温湯浸漬処理は、処理後速やかに浸種作業を行うことが基本ですので、加温通風乾燥機を有する大規模処理施設等で、作業上やむを得ず長期保存する場合にのみ適用してください。
- 2 温湯浸漬処理後の種子水分や、保存温度が高い場合は、発芽率、出芽率が低下するため保存できません。
- 3 温湯浸漬法の基本技術（処理温度、処理時間、処理量）を徹底してください。
- 4 乾燥機は清浄なものを使用し、乾燥後は清潔な場所で保存してください。

【3 効果】

大規模温湯浸漬処理した種子の長期保存が可能となります。

【4 適応対象】

農業普及員等の指導者等